

シグマ研究委員会 J E N D L - 1 積分評価
W. G. 1977 年度第 1 回会合議事録

日 時 1977 年 6 月 2 日 (木) 13:30 ~ 17:30
場 所 原研東京本部 第 11 会議室
出席者 菊池, 長谷川 (原研), 飯島, 亀井 (N A I G), 関, 宝珠山,
佐々木 (M A P I), 山本 (日立), 松延 (住友), 大竹 (P N C)
欠席者 中川 (原研)

配布資料

1. J E N D L - 1 公開版に対してのベンチマークテスト
2. J E N D L - 1 の炉定数化と積分テスト
3. 群定数セット積分テストの為の F C A 臨界集合体実験データ
4. Benchmark Testing Using ENDF / B - III and IV

議 事

1. J E N D L - 1 Benchmark Test の最終結果

^{239}Pu と F_e のデータの変更に伴う炉定数の改訂とベンチマークテストの結果について, 配布資料(1)に基き長谷川委員より説明, その結果は

- a) k_{eff} は Pu 系で 0.6 ~ 0.8 % 上昇, U 系で 0.14 % 下降し, 全系では 0.25 % 上昇するが, 標準偏差は 1.26 % → 1.08 % へ改善される。
- b) $\sigma_f(\text{Pu}-239) / \sigma_f(\text{U}-235)$ は 1% 上昇し $C/E \approx 0.96$ に改善された。
- c) サンプル値は $\text{Pu}-239$ の scaling が変化したのみで F_e に改善は見られなかった。
- d) ドップラーは未実施

これに対し, $\text{Pu}-239$ のサンプル値の絶対値の C/E が必要との意見があり長谷川委員が検討する事に決まった。

2. 昨年度作業の報告書作成

a) 炉定数作成

配布資料(2)と長谷川委員のPROF-GROUCH-G-IIの結果を合わせ、6月末にJAERI-M reportとして投稿する。

b) FCAのベンチマーク炉心

配布資料(3)について、実験値が全部は分っていない点や黒井氏からの私信部分が多い点から、公刊に疑問の声もあったが、JAERI-memoにする方針で、亀井・菊池委員でつめる事にした。

c) ベンチマークテストの結果

f-tableの改訂後の結果を含める事にして、今年度作業と合わせて、JAERI-reportとして公刊する。

3. JENDL-1 炉定数の管理

a) f-tableの改訂

JAERI-Fast setと同じ方式のf-tableが必要である。

TIMSコードを用いて原研の高野氏が作成する意向なので、当W.G.も必要なら協力し、早期完成を目指す。

b) 標準炉定数の概念

JENDL-1の標準炉定数の概念とFormatを確立すべく次回までにuserの希望をまとめる事にした。

4. PNCのsupport

大竹委員よりJENDL-1をsupportする為国内各機関に、JENDL-1を用いた詳細計算をPNCから委託しても良いとの申し入れがあった。これを受け、どのような解析が最も有効かを、次回までに考えておく事とした。

次回会合 1977年6月13日(月) 原研東京本部